

親に似ろ、親に似るなの、親心



○ こんな話を耳にしました。

『つい先日、いつものように子どもたちのわがままに腹を立てた私は、ハッとあることに気づかされました。子どもたちの身勝手なふるまいも、すね方も、なんと私に似ていることか。そう思うと、憤りよりも、この嫌な性格を受け継いだ子どもたちが、ひどくかわいそうに感じました。血のつながり、いのちの流れからみれば、わが子は当然、親である私に似てほしいし、それが親愛の情というものでしょうが、困った性格まで遺伝してしまっは、「人に嫌われはしないか」「自分の道を自信をもって歩いていけるか」と無性に心配になります。「親に似ろ、親に似るなの、親心」です。』

○ ご存じの方もいるかもしれません。子育てのバイブルのような存在として世界中で読まれている詩です。ご一読ください。

子は親の鏡

ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも、不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも、人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは、「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

